

外部と連携する都立高校～都立芦花高校の取組～

ここでは、今年度に様々な外部団体と連携した授業を実施している芦花高校の取組について紹介します。

都立芦花高校の特色

都立芦花高校は、平成15年4月に開校した全日制普通科の単位制高校(※)です。2年次からは、文系・理系に分かれた自由選択科目を選んで自分の時間割を作りますが、この科目選択を1年次の秋に行います。

このため、1年次の総合的な学習の時間を「キャリアガイダンス(以下「CG」という。)」として実施し、将来の進路選択を考えながら科目選択の準備をしていきます。

都立芦花高校から相談を受け、これまでも多くの都立高校を支援してきた平賀恵美子さん(NPO法人じぶん未来クラブ理事)と村上徹也さん(日本福祉大学教授)、そして生涯学習課が総合的な学習の時間の1年間を支援しています。「この子たちの夢を3年後に叶えてあげようプロジェクト」として、CGとともに教科「奉仕」も関連づけ、1年間を通して様々な場面で外部の方と高校生とが出会う場面を設定しています。



身に付けさせたい力

- 人としての基礎基本(人間性、社会性、常識、教養など)
- 次のステップに進める確かな学力
- 学ぶことへの意欲、主体的な学びへの行動変容
 - ・ 疑問を持つ、好奇心を高める
 - ・ 色々な答えがあることを知り自分で考える
- コミュニケーション能力とコラボレーション能力
 - ・ 広く生徒の意見を聴く、討論する、自分の考えを修正する
 - ・ 互いの意見、アドバイス、提案等を生かして高みを目指す、より良い案を創り出す
- 安易に妥協せず、自分の進路にチャレンジする力

★NPO法人じぶん未来クラブの平賀恵美子さんにお伺いしました。

高校の現場は、教科・部活の指導のほか、生活指導・進路指導など多岐にわたる、本当に大変で難しい環境だと感じています。その中で私が関わる意味は、外部だからこそ、「違う視点と方法」を提示し、先生方と一緒に試行錯誤していくことと捉えています。

ビジネスは特殊なものではありません。ビジネスも高校生の世界も、結局、人間同士の関係で作られており、そこに大切なものは、生きる事においても大切な普遍的なものだと考えています。自分自身と考えが異なる他者を認め、心を開いて関係を結び、何かをやりきっていく過程で信頼を得ていく。しかも、やってくるのは新しい体験ばかり。やり方も正解もないなかで、自分なりに考えて、とりあえずやってみて、何らかの成果を得る。失敗したら、逃げずにまたやり直し、成功してもさらに工夫したり、新しいことへまたチャレンジする。その過程でいろいろ気づきながら、成長をしていく。

そういうことは、社会人になって急にできるようになるわけではなく、むしろ年を経れば経るほど、その力を得ていくのは難しい。そのために、高校時代に何を経験しておいてほしいか、どんな心持ちになっておいてほしいのか、そう考えて、プログラム作りをお手伝いしています。

高校1年生の段階では、「やる気のある先輩・大人たちと出会う」「チームで何かを作り上げる体験をする」この2つが目標。さまざまな授業の中に、面白い活動をしている大学生や、社会人に会う機会を作っています。人との出会いの中で、刺激をもらえれば、また次の新しい人に出会う勇気や、異なる価値観をもつ人を受け入れる気持ちも少しはできるでしょう。チームで何かを行う経験は、学校の中では、主に部活や文化祭で培われますが、ここでは責任もあわせて、クラスの中でランダムなチームを作って、やってもらおうと考えています。

「学び」は、教えられて得られるものではなく、自分自身の「気づき」から始まると考えています。しかし、「気づき」は、高校生にとって、前向きな取組でないと、なかなか生まれません。少しでも多くの気づきを得られるよう、先生方と一緒に、打合せを繰り返しています。

※単位制高校

決められた科目を学ぶだけではなく、多くの科目の中から、自分の興味・関心や進路希望に応じた科目を選んで、学べる学校です。学年制と区別して、「～学年」という呼び方ではなく「～年次」という呼び方をします。入学年次にかかわらず共通に履修できる選択科目が設置されています。1年次は基礎の科目をしっかり学ぶために必修履修科目とホームルームを中心とした時間割ですが、2年次以降は自分の学習計画に基づいて、様々な選択科目を履修することができます。

都立芦花高校 HP <http://www.roka-h.metro.tokyo.jp/cms/html/top/main/index.html>

芦花高校 キャリア教育授業の紹介

芦花高校の今年度のCGの授業は、以下の内容で進んでいます。前年度末から、CG担当の先生方と平賀さんと一緒に、内容について話し合いながら作成したものです。■が一緒に作ったプログラムです。

キャリア・ガイダンス(CG)1年間の内容

回	テーマ	内容
1	高校の学びを知る	CGオリエンテーション
2	大学生にきく	「高校時代、これはやっつけ！」大学生とワーク「高校生活にやりたい10のこと」
3・4	自己分析・適性検査	
5	大学生にきく	「大学生はどんな勉強をしている？～高校の先にある学びの広がりを知ろう！」
6	社会人にきく	職業人インタビューオリエンテーション
7・8	芦花の学びを知る	履修選択ハンドブック配布、ガイダンス
9	社会人にきく	職業人インタビュー発表準備
10	社会人にきく	職業人インタビュー発表
11	進路を考える	履修ガイダンス 最終確認
12～16	チームで協力する	新1年に芦花高校の1年間をアドバイスしよう グループごとに1年生の前で発表する準備



「大学生にきく」の授業前の打合せ 中央が平賀さん

「高校時代、これはやっつけ！」大学生とワーク「高校生活にやりたい10のこと」



最初にクラスに来た大学生から紹介

クラスに4、5名ずつの大学生が入り、自らの高校時代に夢中になったこと、忘れられないエピソード、そしてアドバイスを語ってもらいました。15分話したら、隣のグループに移動して、3つのグループで話し、最後の時間で高校生は「高校生活でやりたい10のこと」を書いてグループ内で発表します。大学生は、自分の高校時代を一言で言うと、というキャッチコピーを、「自分の人生を変えた素敵なお人に出会った時代」「後悔」「教室のすみっこ族」「小さなことでもいいからやってみる」「物事が蓄えられた時代」など様々に考え、15分間に話す内容について紙芝居やパワーポイントにまとめ、写真等の準備をしてきました。



高校生活にやりたい10のことをワークシートに書いていますが、なかなか10も出てきません。

この授業の実施に当たっては、事前に平賀さんと参加する大学生とて研修会を行い、今回の授業の目的、当日の進行、各自の発表内容等について確認する時間をもちました。

4月の授業ということもあり、最初は互いにぎこちない感じもありましたが、2回目、3回目と話すことで大学生の話も熱を帯び、高校生たちはとても真剣に聞いていました。

総合的な学習の時間の最初の授業。高校生活への「初期設定企画」です。「自分を育てるのは自分である」という当事者意識を持って、高校生活を始めてほしい。そう思えるように、おもしろいことをしている大学生たちから、彼らの高校時代に得た「達成感」「喜び」「仲間」「やらなかった後悔」などを聞くことで、リアルなアドバイスにしたいと考えました。

★平賀さんの一言

「大学生はどんな勉強をしている？～高校の先にある学びの広がりを知ろう！」

大学生が専攻している学部で学ぶ内容と将来の夢、そして高校の授業へのつながりについて話す時間です。

高校生には事前に当日参加する「大学生紹介シート」を配布。専攻分野のおもしろさや、専攻につながる高校の教科等の情報がわかるようにしています。高校生はそのリストをもとに、話を聞きたい大学生のところに集まります。1人約15～20分で、3人の話を聞くことができるように設定しました。



「人間」分野 幼児教育課程

大学生たちは、法学部の学生は六法全書を、保育の学生は様々なテキストやグッズを、そして美術系の学生は作品などを持って、その学問のおもしろさ・大変さなどを語ってくれました。そして、学部を選んだきっかけ、高校のどの教科とつながっているのか、高校生の時に感じた「学ぶ意味」「自分なりの勉強法」についても、アドバイスをしてくれました。



「社会」分野 商学部

10月の履修登録に向けて、自分の興味の方向や志向を考えることが主な目的です。今学んでいる事が、何につながっているのかというつながりも意識して大学生に話してもらいました。他にも、彼ら自身が感じた「学ぶ意味」「学ぶ楽しさ」を感じた体験を話してもらい、「主体的に学ぶ意識」を持ってたらと考え、企画しています。

★平賀さんの一言

職業人インタビュー <計6時間+取材>

自分自身が会いたい、話を聞きたいと思う人に自分でアポイントメントをとり、その人からしか聞けない仕事への想いやこだわりを、夏休み中に取材。9月に報告書を作成し、クラスで発表する、という流れのプログラムです。基本的に家族などは禁止とし、なるべく外部の方にあうようルールを設定しました。

オリエンテーションの時間には、練習として、担任の先生にインタビューをしてみました。事前に「アンケートシート」を先生に書いてもらっています。プロフィール、高校時代のこと、教師をめざすきっかけ、教師になってからのエピソード、生徒への思いなどについて記入してもらいました。生徒はそのシートを読み、さらに突っ込み質問をしていきます。高校時代に熱中したこと、教師という仕事の中で一番楽しかった、そしてキツかったエピソードなど。知っていると思っていた先生の見えない一面や思いを知ることで、インタビューの面白さを実感。そして、インタビューのコツを自分たち自身で考え、グループで共有しました。

7月の授業の最初に、「働く」ことのイメージを書いてみました。自分のインタビューと、みんなのインタビューを聞いて、このイメージはどのように変わっているのでしょうか。そして最後の授業では、自分としてつかんだ「働くとは」を考えます。

シリーズの最初の授業では「勇気を出して好きな人に会いに行け」と伝えました。結果、ジブリ美術館員、マンガ雑誌の編集部、様々な人に会いに行ってくれました。「勇気を出して行動すれば、キチンと応えてくれる人がいる、おもしろい話が聞ける」そう思えるだけで、その後の「新しい行動へのハードルが下がる」のではないのでしょうか。身近な職業の人が多かったのですが、「分かっている」と思っていた仕事の裏に、個人の思いがあること(中学時代の先生から「誰にも可能性がある」と信じることが、教師にとって最も大切)と聞き、感動して帰ってきた高校生がいました。そういうナマの言葉に触れて、仕事に対する気持ちが大きく変わってきたようです。

★平賀さんの一言

新1年に芦花高校の1年間をアドバイス <2時間×5回>

CGのまとめとして、入学する新1年生に、芦花高校の1年間どのようなものなのかを紹介する授業の準備をします。少人数のグループで、授業の1コマを受け持つのです。学校の内部をほとんど知らない新入生に、紹介するコンテンツは何か、どのような伝え方をするかを、考え、意見を出し、一つの企画を実施するまで体験します。

この発表練習の時間にも、大学生に参加してもらい、知らない人から見て、わかりやすいか、面白そうに感じられるか、アドバイスをもらう予定です。

この企画は、事情を知らない他者にプレゼンをするということ。プレゼンの成否によっては、高校生活への期待値が大きく変わるという影響も与えます。自身の1年間の振り返りだけでは、どうしても反省で終わってしまいがちですが、新1年生に伝えることによって、ポジティブな振り返りになるのでは、とも考えました。

★平賀さんの一言

教科「奉仕」

CGと平行して、教科「奉仕」の授業も進めています。奉仕の授業には、次の団体が体験活動の実施に協力しました。■はCGの授業にも協力してもらっています。



コモンビートの活動 会場準備



ユニクロの活動 集めた衣料を選別

■国際協力NGO「風の会」(6ページ)

■学生ボランティア企画集団NUTS(6ページ)

□今できること(7ページ)

□ユニクロ

□コモンビート

□世田谷ボランティア協会

カンボジアへの国際理解教育の提供

スポーツゴミ拾い

東日本大震災による被災地支援の街頭募金活動

難民キャンプに寄贈するための古着の回収活動

100名の市民がつくりあげるミュージカルのスタッフ体験活動

地域の保育園、児童館、特別養護老人ホーム、地域交流活動等での体験活動